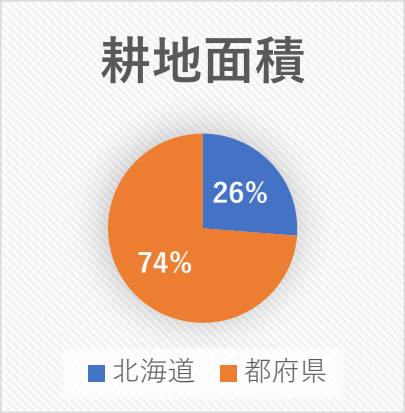
北海道の農業・JA
及び
JAカレッジについて

1. 北海道農業の特徴

※北海道は**日本で最大の食料供給地域**です！！



（R3）
北海道　1,143千ha
都府県　3,206千ha

資料；農水省「耕地及び作付面積調査」

北海道の食料自給率（R1）

	食料自給率
北海道	216%
全国	38%

資料；農水省調べ、道農政部調べ

【農家1戸あたりの経営面積（R3）】
- 北海道 30.8 ha
- 都府県 2.2 ha

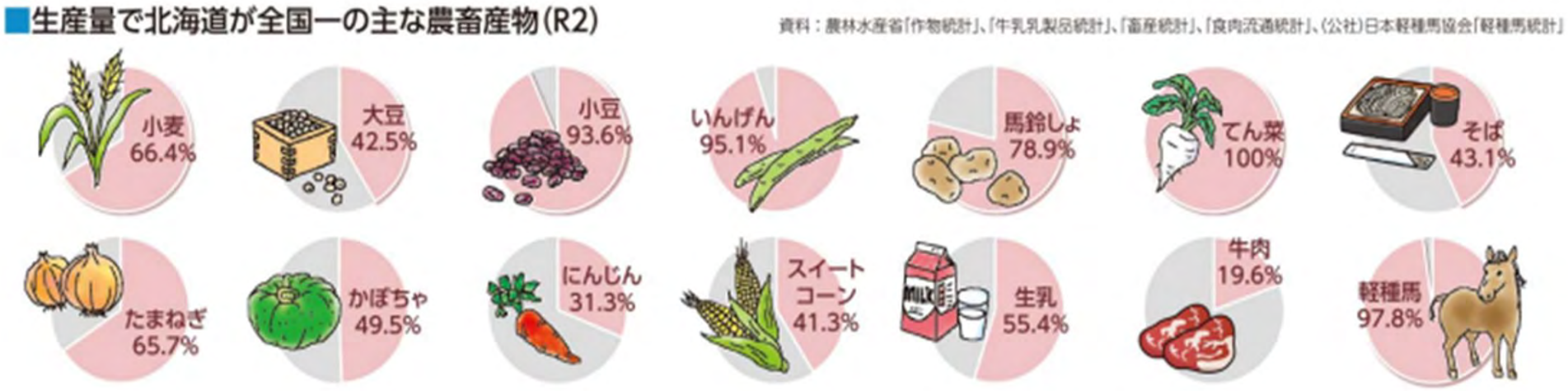
※北海道は都府県のおよそ14倍

資料；農水省「耕地面積調査」、道農政部調べ

【北海道の農業産出額】
- R2　12,667億円（全国シェア 14.1%）
- R1　12,558億円（全国シェア 14.0%）

資料；農水省「生産農業所得統計」

2. 生産量が全国一の主な農畜産物



※多くの品目で全国1位となっており日本の食料供給に大きな役割を果たしています。

3. 北海道農業の地域ごとの特徴

※北海道は広大であり気候や立地条件が地域によって異なるため、**地域ごとに特色のある農業**が展開されています。

①**道央地帯（石狩・空知・胆振・日高・上川・留萌）**

・稲作を中心に野菜・肉用牛・軽種馬など地域の特色を生かした農業

②**道南地帯（後志・渡島・桧山）**

・稲作、施設園芸、畑作、果樹など集約的な農業

③**道東地帯（オホーツク・十勝）**

・麦類・豆類・てん菜・馬鈴しょ・酪農畜産が盛んで大規模な農業

④**道東・道北地帯（釧路・根室・宗谷）**

・大規模な草地を活用した酪農経営が盛ん

4. JAとは

（1）JAは地域農業や地域社会を守り発展させていくための組織です！

JAとは

・・・Japan Agricultural Cooperatives　の略です。

日本の　　農業　　協同組合

（JAマーク）

JAは、相互扶助の精神（※1）のもとに農家の営農と生活を守り高め、
より良い社会を築くことを目的に組織された協同組合です。
この目的のために、JAはさまざまな仕事をしています。
（※1）お互いに協力し助け合うこと

（2）JAは組合員が組織し運営しています。

【組合員とは】

①正組合員（農業者）

②准組合員（地域で暮らす皆さん）

【組合員の役割とは】

※組合員はJAに出資し、JAの構成員となります。

※自分たちや地域の営農と生活の向上を目指し、組合員としてJAの様々な事業を利用します。

※自分たちのJAをより良くするため、JAに意見や要望を言ったり、JAの総会に出席し事業内容に関して賛成か反対の意思表示（※2）をします。　（※2）正組合員の場合

（3）北海道のJAの概要

①北海道には98のJA（※3）（令和5年4月現在）があります。
②正組合員 58千人（令和4年3月末現在）
③准組合員 280千人（令和4年3月末現在）
④職員数 12千人（令和4年3月末現在）

（※3）総合JA（さまざまな事業を総合的に実施しているJA）の数です

（4）JAの歴史をたどってみると・・・

①1947年に農業協同組合法が制定され、全国的に設立されていきました。
※ちなみに全国各地域にもJAがたくさんあり、562のJA（令和3年4月現在、北海道含む）があります。
②JAは時代の変化等を踏まえ、組合員の合意のもと必要に応じ合併を進めています。

5. JAは何をしているの？

（1）JAは**農業者の営農と生活がより良くなることを目指し、総合的にサポートする仕事**をしています。
そのため、**仕事の内容は広範囲**に及び、関係する部署があります。

【JAの主な事業（仕事）】

営農指導事業
農業経営や生産技術の指導

信用事業
貯金の受け入れや農業融資

共済事業
人・家・車の事故や災害等への保障

販売事業
農畜産物の販売

購買事業
生産資材や生活物資の購買（供給）

（2）JAの仕事は農業者だけが対象ではありません！

①JAは、正組合員である農業者だけでなく、准組合員（地域に暮らす皆さん）や一般の消費者の皆さんなどを対象とした仕事もしています。

※例えば・・・

・金融店舗、ガソリンスタンド、生活店舗（Aコープ）などを通じ、地域の皆さんへの生活インフラを提供しています。

・農業者が丹精込めて生産した農畜産物を販売し、全国の消費者の皆さんに届けています。

・そのほか、食農教育事業（農業や食に関する授業、農作業体験など）や収穫祭などを通じ、地域の農業・JA、地元の農畜産物等に関する情報発信と理解促進に努めています。

6. 時代の流れを踏まえたJAの取組み

（1）SDGsとJAの取組み

①JAは地域農業の振興や地域社会に向けた仕事を通じ、国連（※4）よりSDGsを達成するための重要なステークホルダー（関係者）に位置付けられています。

（※4）国連とは国際連合の略。世界の平和と社会の発展を目指す国際機関で、現在、日本を含め192か国が加盟。

②JAが行っている取組みはSDGsに結びついている面があり、今後ともSDGsとの関連も意識しながら対応していきます。

※次ページ以降に「JAの活動とSDGsの取組み」を掲載

【JAの活動とSDGsの取組み】

JAの活動	SDGsの取組み
信用事業	信用事業を通じた組合員等への資金融資により、経済成長・技術革新・住みよい街づくりなどを推進
加工工場	農畜産物の加工により、製品の提供のみならず副産物の飼料への利用や廃棄物の削減などを進める
集出荷施設	施設運営を通じ、安全・安心な農畜産物を消費者に安定的に届ける
Aコープ	スーパーがない（少ない）地域では、ライフラインとしての役割を果たす
スマート農業の推進	ICTやロボット技術の活用を通じた省力化や省人化により、担い手不足の改善や農業生産力の維持・向上を図る
外国人技能実習生	外国人技能実習生への日本の農業技術伝承と世界への普及を図るとともに、日本の農業の担い手不足改善につなげる

【JAの活動とSDGsの取組み】

JAの活動	SDGsの取組み	
堆肥の循環	12 15	牛の堆肥を肥料として畑に循環することにより、廃棄物の減少と肥沃な農地づくりにつなげる
バイオガス発電	7 9 12 13	牛の糞尿からバイオガスを発生させ電気をつくることにより、廃棄物やCO2の削減につながる
厚生病院	3 11	地域から信頼され選ばれる病院を目指すとともに、地域住民の健康を守り生きがいのある地域づくりに貢献する
食育	2 3 12 13	食育を通じ、日本の食料自給率向上・フードロスなどの理解促進や環境問題の改善につなげる
農畜産物の消費拡大	3 8 13 15	農畜産物の消費拡大は農業者のやりがいと農業の継続、フードロスの削減等につながる。 また、農業継続による多面的機能（水田や畑で雨水を一時的に貯めることによる洪水防止、作物や水田からの水分蒸発による気温上昇緩和など）は、国土の保全や気候変動緩和対策に効果をもたらす

（2）スマート農業とJA

①スマートの農業とは、省力化・省人化を図り高品質や生産性の高い農業を実現するため、ロボット技術やICTを活用する新たな農業のことです。

※例えば・・・

◎農業機械へのロボット技術の導入

・GPS自動走行システム等の導入により農業機械の夜間走行や複数での走行（有人のトラクターと無人のトラクターの同時走行）等で作業能力を大幅アップ

◎データにもとづくきめ細かい農業生産

・センシング技術（センサーと呼ばれる感知器を使用し様々な情報を計測）や過去のデータをもとに土壌成分や作物の生育状況を分析し、肥料の最適な投入等を通じた効率的かつ高品質・多収な農産物生産を実現

◎農作業の負担軽減や自動化技術の導入

・パワーアシストスーツによる農作業の負担軽減
・広範囲で多数ある水田の水位を自動で遠隔制御
・牛の搾乳や餌やりをロボットが自動で行う

②農業の担い手不足の改善や農業産力の維持・向上に向けた有効な対策のひとつとしてスマート農業は日々進化のもと生産現場で活用されています。

JAも個々の農業者の考え方や経営状況を踏まえ経営手段の選択肢のひとつとしてスマート農業の推進を図っています。

7. 食を支える本道農業・JA

（1）ロシア・ウクライナ戦争の影響等による食料供給体制の不安定化

・戦争をきっかけに両国の主要な輸出品目である小麦やとうもろこし等の供給が大幅に制限され小麦をはじめ家畜の飼料等の価格高騰を招くとともに、流通体制の世界的な混乱等により肥料、燃料などの価格も急上昇しました。

・食料自給率が低く、肥料・飼料・エネルギー等の大半を輸入に頼っている日本としては、農業などの関連産業や国民生活に多大な影響を及ぼしています。

（2）食料をとりまく情勢が不安定化している中、改めて我が国の食料生産のあり方を見直すとき！

・食料を取り巻くいかなる情勢変化にもきちんと対応し、食料を安定的に食卓に届けることができるよう、我が国の食料の安定生産体制を確立することが重要です。

➡ そのためには、農業の担い手の育成、農業経営の安定、農地の確保等が必要

（3） JAの役割

・農業生産を担っている農業者をサポートすることがJAの最大の使命です。

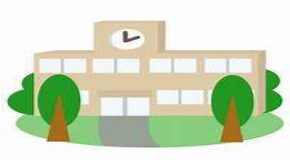
・そのことを通じて農業者の経営安定を図り、将来にわたり安全・安心な農畜産物を消費者の皆さんに安定的に届けることがJAの重要な役割です。

食料をとりまく情勢変化にしっかりと対応できるよう、農業者のサポートを通じた食料の安定生産体制の確立に向けて、今後ともJAはその役割を発揮していきます！

北海道は我が国最大の食料供給地域です

8. JAカレッジとは？

（1）JAカレッジは北海道のJAグループで運営している北海道農業協同組合学校の愛称です。
道内のJAへの就職に向け、農業・JAの基礎的知識を学ぶとともにJAの仕事に必要な資格の取得を主な目的としています。



（2）JAへの就職希望者の就職率は100%となっており、就職にあたっては学校側が全面的にサポートします。

（3）これまでの卒業生は2,900名余りに及び、現在約1,800名が全道各地のJAで活躍しています。
（※全道のJA職員数（正職員）約9,500名・・・R4年6月末時点）

（4）JAカレッジの主な概要

①定員は60名で1年制の男女共学となっています。

②日頃からの学習時間の確保や仲間づくりなどのため、全寮制（3食付き）となっています。

③JA業務に必要な資格は国家試験（毒物劇物取扱者、危険物取扱者）を含め10資格設けており、事前の講習時間を確保した中で資格取得を図っています。

【本校合格率】

※毒物劇物取扱者　2021年 83%（全道41%）、2020年 92%（全道44%）、2019年 95%（全道44%）

※危険物取扱者　2021年 97%（全道33%）、2020年 92%（全道40%）、2019年 100%（全道55%）

④講義による勉強以外に

「農業実習」、「酪農学園大学やホクレン長沼研究農場の視察」、「道内視察研修旅行」、「社会貢献活動（学校近郊清掃、緑の羽根募金）」「Tボール大会（焼肉込み）」、「体育文化祭」、「オリエンテーリング」などの課外授業や課外活動も行っています。

卒業生からの一言

全ての人に誠意を持って

古川 そらさん（51期卒業生）
（岩見沢農業高校卒業）
JAきたそらち 勤務

私は、JAカレッジの一年間で随分変われた気がします。一緒に生活してきた友人たちのおかげでもあり、何より自分で変わりたいと思ったこともありました。変わろうと思えば、人は変われます。そのことを実感できた一年を糧に、私はこれからも自分を良い方向に変えて行きたいと思っています。これからは、社会人としての礼儀を重んじる事のできる人間になり、全ての人に感謝の言葉を誠意をもって伝えられる、そんな職員になりたいと思います。

人から信頼される職員

川上 大地さん（52期卒業生）
（中標津高校卒業）
JAけねべつ 勤務

私は農業や農協についての知識はほとんどない状態でJAカレッジに入学しました。そんな私には学ぶことの多くが新鮮で新しい知識として多くを習得しました。JAカレッジでの学習を通じて、私なりに働く上で一番大切だと思うことがあります。それは、「人との信頼関係」です。特にJAでは、組合員との信頼関係はとても大切で、何でも言い合える関係づくりが必要です。話す時は相手が伝えたいことを自分の頭で考え、またそれに対して自分の意見を言う。これが職員にとって一番必要な能力だと思います。

組合員から信頼される職員になりたい

増地 みどりさん（52期卒業生）
（酪農学園大学卒業）
JA新はこだて 勤務

私の社会人としての目標は、「組合員から信頼される職員になりたい」ということです。これは入組した新社会人の多くが考えることだと思います。そして、とても難しいことだと思います。人から信頼を得るというのは難しいもので、特に失った信頼を取りもどすのはとてもたいへんです。ですから、日頃からしっかりと職務を行い、組合員の目線に立つことを大事にしていきたいです。